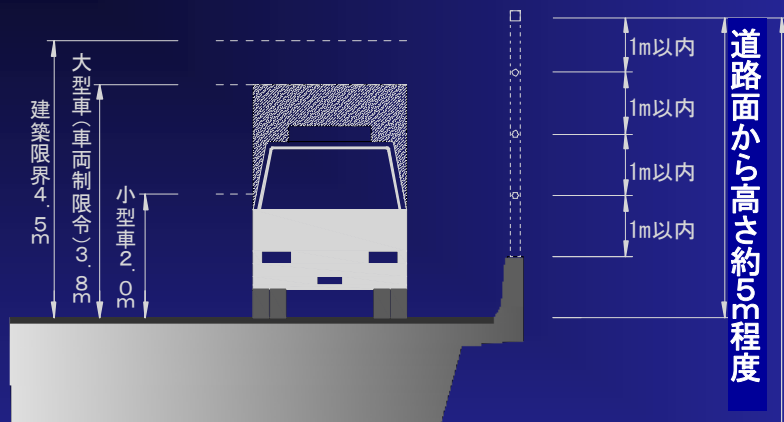


1. 第3回懇談会での 意見と対応

意見に対する対応

第3回懇談会での意見	対 応
・コウノトリと車の衝突を防ぐ配慮が必要	コウノトリと車の衝突を防ぐ配慮 (案)
・道路の内部景観(ドライバーの視点)への配慮が必要	
・生物多様性の保全と創造を考慮する	生物多様性について

(1) コウノトリと車の衝突を防ぐ配慮(案)



高さのイメージ

※コウノトリと車の衝突を防ぐ配慮の具体的な構造などの検討については、今後、引き続きコウノトリの行動特性より、コウノトリの郷公園の専門家の意見を聞きながら進める

高さ1m以内の間隔

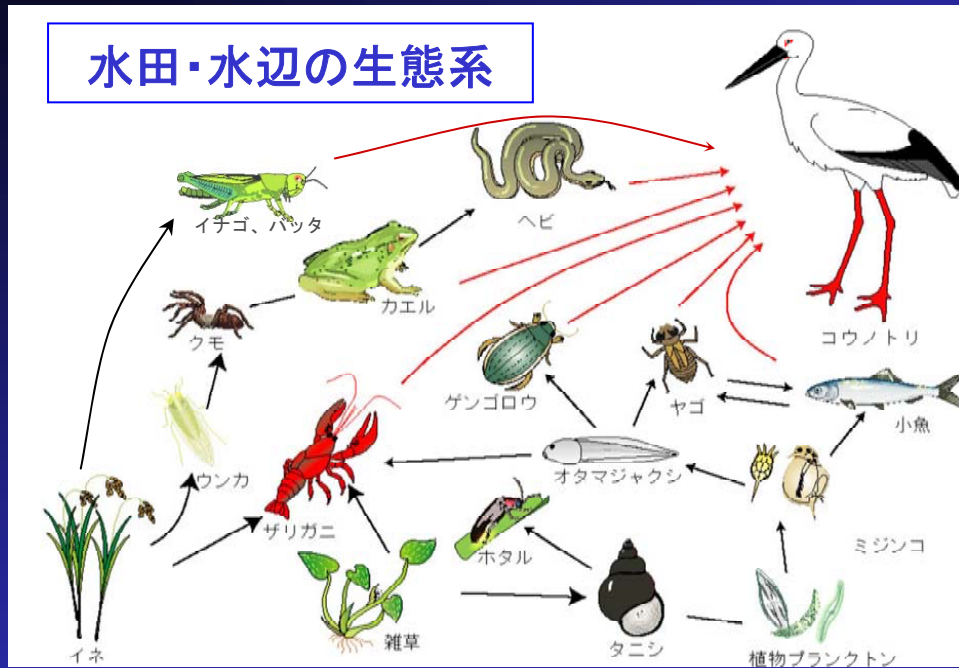


イメージ

- コウノトリの保護の観点と走行車両の安全の観点から「コウノトリと車の衝突を防ぐ配慮」が必要であり、今後、具体的な飛翔誘導などの検討を進めるが、検討条件は以下のとおり
- コウノトリは、壁になっていなくても、高さ方向1m以内の間隔で障害物があれば通り抜けられない(コウノトリの郷公園より)
- 大型車との衝突を防ぐため、大型車の高さを余裕をもって越える高さの物が必要
- コウノトリの衝突を防ぐ配慮を行うにあたり、道路の内部景観(ドライバーの視点)にも配慮が必要
- 管理上の問題が少ない構造とすることが必要

(2) 生物多様性について

水田・水辺の生態系



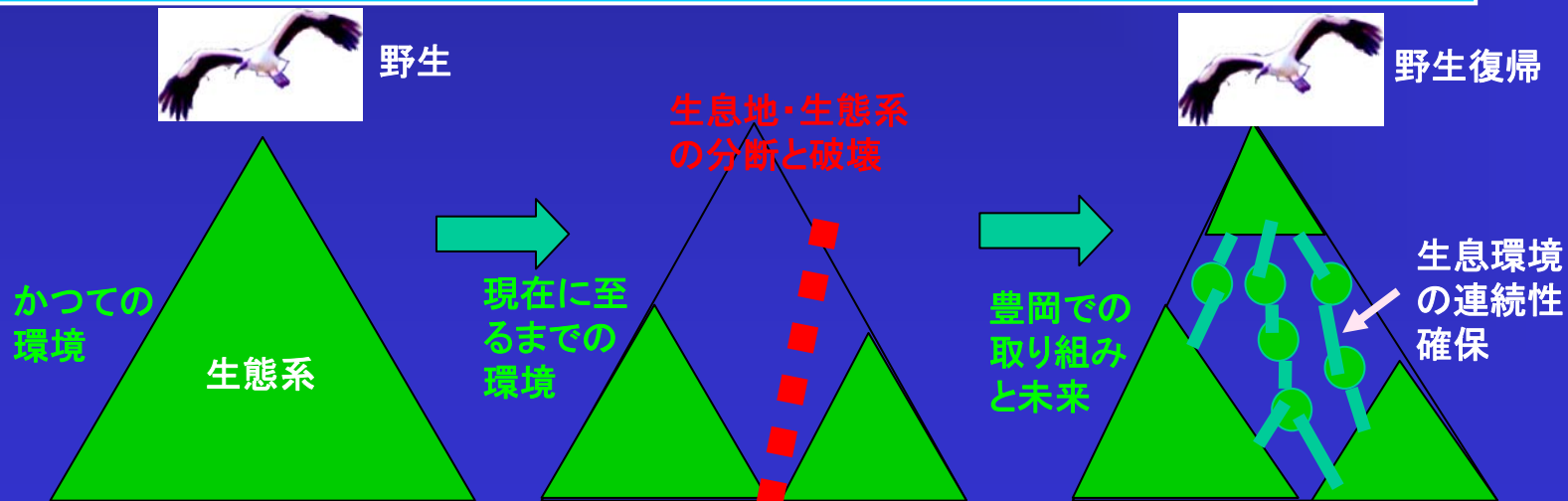
生物多様性について

- 生息環境の連続性を確保することは、生物の多様性につながり、生態系の頂点にいるコウノトリが暮らせる環境につながります。
- 豊岡盆地を代表する田園生態系について、生物多様性のある生態系ネットワーク(特に水のネットワーク)に配慮する必要があります。

豊岡道路計画における配慮

- 豊岡においての、生物の生息環境の連続性を確保する取り組みに配慮した計画とします。
- 水田通過部においては、生物の生息環境の連続性に配慮します。

生態系のイメージと生物の生息環境の連続性を確保する豊岡での取り組み



コウノトリの郷公園資料をもとに作成